

堆肥センターを訪ねて

岩手県堆肥センター協議会事務局
岩手県畜産協会総務部長 佐藤 彰

米と肉牛、りんご、野菜の生産が盛んな地域で取り組んでいる堆肥センターを紹介する。

1. 名称

大地活力センター(岩手県江刺市)

2. 地域の概要

江刺市は、岩手県の中南部に位置し、北上川流域平野から北上高地に及ぶ362.5km²の広大な面積を有し、豊かな自然に恵まれた地域である。

農業の基幹は米(江刺金札米)、牛(陸中牛・江刺牛)、りんご(江刺りんご)、野菜などで、全国的にも高い評価を受けており、その大半は水稲との複合経営であり、中でも肉用牛との複合が多い地域である。

3. 経営の概要

大地活力センターは農協が中心となってH13年に設立され稼働している。原料は肉用牛・乳用牛・豚の糞で、およそ35戸の有畜農家から原料がセンターに持ち込まれてくる。生産された良質堆肥は、水田と畑におよそ半々の割合で利用され、畑作ではトマト・ピーマン・キュウリなどの野菜への利用が多く、副資材としてモミガラを利用している。

取り組み行程としては、有畜農家が処理費を支払って家畜糞を搬入し、水分調整の副資材はモミガラを利用している。堆肥はスクープ・ロータリーで攪拌処理し、生産された良質堆肥はセンター内に保管される。

出荷については、利用する耕種農家の作業体系(水稲・野菜)によって片寄りが見られるものの、センターの在庫量はほぼ一定のストックで収まっていることから、現在は搬入と搬出のバランスが取れている。

堆肥の出荷形態はバラ出荷・フレコン・袋詰堆肥の順であり、耕畜連携を推進するため、パンフレットの作成や産直施設内でのPR、行政を含めた説明会の開催など、センターで生産された堆肥の利用促進に積極的に取り組んでいる。

また、今年度から土づくり堆肥に対する助成事業と連携し、堆肥散布作業を行うことにより、堆肥の利活用の促進に努めながら地域循環型農業を図ろうとしている。